

2級 実技（面接）試験実施概要

実技（面接）試験は、以下の実施方法により行われます。

1. 実施方法：ロールプレイ …… 20分
口頭試問 …… 7分
2. 相談内容は、5 ケースのうちから 1 ケースが出題されます。
3. 受検者は、民間の相談機関の相談室（学生、社会人その他様々な人を対象にしたキャリア相談窓口）において、キャリアコンサルタントの役割を担っていると仮定してロールプレイを行います。
4. 相談者は試験係員が行います。
5. 面接時間は 20 分という設定でロールプレイを行います。なお、キャリアコンサルティングの開始にあたっては、守秘義務、持ち時間など事前説明は済んでいるものとして進めてください。
6. 面接を進めるにあたって、キャリアコンサルタントのあり方は自由ですが、相談者との関係構築、相談者の抱えている問題、その問題に対する目標設定など、具体的展開につながるような応答、プロセスを心がけてください。
7. ロールプレイ後、口頭試問を行います。
口頭試問の例：
①ロールプレイを振り返って良かった点、改善したい点は何ですか。
②相談者が相談したい問題は何ですか。
8. 合格基準は 100 点満点で 60 点以上の得点です。評価区分は基本的態度、関係構築力、問題把握力、具体的展開力の 4 区分です。なお、評価区分ごとに満点の 60%以上の得点（所要点）が必要です。
9. 厳正な採点を行うため、面接試験内容を録音します。受検者は受検に際し、資料等の持ち込み、メモ・録音は一切できません。なお、録音をしていた場合は失格となります。

厚生労働大臣指定試験機関

特定非営利活動法人キャリアコンサルティング協議会

〒105-0021 東京都港区東新橋 2 丁目 11 番 7 号 住友東新橋ビル 5 号館 9 階

TEL 03-5402-4688

2級キャリアコンサルティング技能検定実技（面接）試験の評価区分とその内容

2級キャリアコンサルティング技能検定において、実技（面接）試験の合格基準は、100点満点で60点以上の得点であるとともに、評価区分ごとに配点の60%以上の得点（所要点）であることが必要です。2級実技（面接）試験の評価区分とその内容は、下記のとおりです。受検される方は、これを熟読した上で、試験に臨んでください。

記

【2級実技（面接）試験の評価区分とその内容】

基本的態度：キャリアコンサルタントとして自分をありのままに受容し、言語・非言語で表現し、多くの場合、一致していること。また、必要に応じて相談者の個別問題に応じた支援（助言・情報提供等）を適切に行うことができること。

具体的には、敬意をもって相談者の主体性を尊重し、自然体で感情や思考と言動に食い違いがなく、受容的、共感的、支援的態度（助言・情報提供を行う姿勢を含む）を持っているかどうか。さらには演技的、技巧的でないこと、不自然なやり取り、相談者を無視するような独善的な提案や攻撃的、批判的な対応でないこと。

関係構築力：キャリアコンサルタントとして、相談者に対する受容的・共感的な態度及び誠実な態度を維持しつつ、様々なカウンセリングの理論とスキルを用いて、相談者との人格的相互関係の中で相談者が自分に気づき、成長するような相談を安定的に進めることができること。

具体的には次の内容について、総合的な視点で、お互いの深い信頼関係に基づいて、相互の役割を自覚した安定的な相談関係が築けているか、関係が深まるような働きかけができてい

かどうか。
・相談者が安心感、信頼感を抱くことができるような対応ができるかどうか。誠実さ、温かみ、穏やかさなどの印象を与え、その雰囲気を感じられること。語られた内容を正確に理解して適切に返すことができること、どんなことでも受け止めることができること、相談者の解決の力になることができることなどが対応の中で示されるかどうか。

・相談者の気持ちを安易に質問することなく、自ら感じ取りそれを受け止め、適切に回答することができるかどうか。

・相談者との言語・非言語的やり取りの中で、その都度適切な対応が可能であるスキルを有するかどうか。技法の選択、言葉の選択、言葉遣い、表情などが適切であるかどうか。

問題把握力：相談者が表現した内容から、相談者が相談したいことを把握し理解するとともに、相談者が訴えている以外の相談者の問題を把握しており、推論の根拠も説明できること。

具体的には、機械的な復唱や過剰な周辺状況の確認ではなく、適切で簡潔な要約や、その後の話題、進め方が適切であるか。相談者のニーズの理解について、あいまいさ、誤解、決めつけ、思い込み、的外れな応答がなく、正確に理解できているか。相談者のニーズに応えるような方向性等について、妥当な仮説が立てられているか。相談者が解決できずに困っていることと、その理由を相談者が語る主訴に振り回されずに理解しようとしているかどうか。キャリアコンサルタントが自分で把握、理解、対応できる視点、領域だけで考え、面談を進めていないこと。

具体的展開力：相談者との関係性を意識しながら面談を進め、相談者の訴えを理解した上で適切な目標を設定し、キャリアコンサルタントとしての対応を適切に選択し、対応できることで、相談者に気づき、変化（問題に対する認知の変化、自分または重要な他者に対する認知の変化、自己の表面的な表現から内面表現への変化、具体的行動や意欲の変化など）が起こること。

具体的には、実際のロールプレイにおいて、正確に把握された問題に対して、適切な目標が設定され、共有されているかどうか。さらに、そのために有効な課題が示されているか、具体的な取り組みの計画が示されているか、適切な助言、情報提供が行われているか。相談者を尊重しながら、適切な過程で進行できていること。